

## 環境ニュースレター 秋号

V o l . 5 7

NOW



発行者 NPO 法人 環境21の会 理事長 松本 弘  
 明石市松が丘2丁目2-6  
 明舞第2センタービル2階 明舞まちづくり交流拠点内  
 Eメール: [kankyo21@zeus.eonet.ne.jp](mailto:kankyo21@zeus.eonet.ne.jp)  
<http://www.eonet.ne.jp/~kankyou21noka>  
 発行: 年4回

特定非営利活動法人 **環境21の会**

## 2050年二酸化炭素排出実質ゼロに向けた取組み

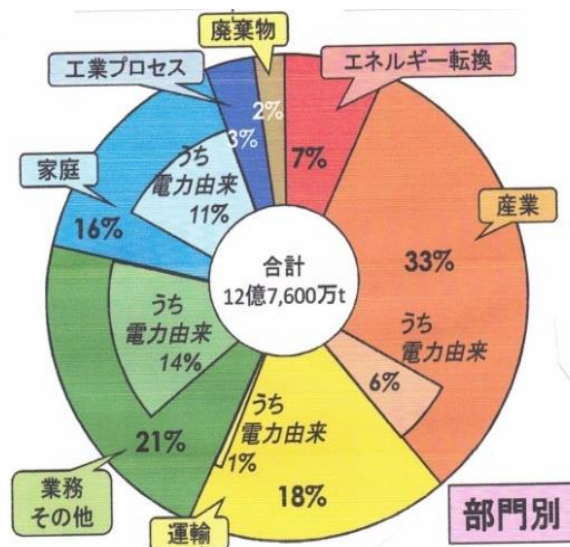
副理事長 塩野 勝

地球温暖化防止のために最近締結された協定がパリ協定である。これを実施することによって、地球の温暖化防止を推し進めようというものである。一応目標を2050年において地球の平均気温を産業革命以前から2.0以内の上昇に抑えようとしている。できれば1.5℃以内に抑えようとするのが目標である。

これまで長い間、「京都議定書」に基づいて地球環境の緩和が進められてきた。これは1997年に京都会議(COP3)で世界各国から関係者が集い、6種類の温室効果ガスについて、法的拘束力のある排出削減の数値目標などが採択されたものである。しかし法的拘束力のある数値目標は先進国が対象など、限定的な効果しか期待できなかった。一方京都議定書に代わるものとして採択された「パリ協定」は、先進国に限らず、参加する国すべてが温暖化対策の対象である。日本も昨年10月に菅総理の所信表明で、これへの参加を表明した。

【日本が掲げている目標】 日本の脱炭素目標について、菅総理が2020年10月に行った所信表明演説で、「2050年のカーボンニュートラル宣言」を発表した。注目すべきことは、二酸化炭素だけに限らず、メタンや一酸化炭素など温室効果ガス全体の実質排出をゼロにするということである。

日本で排出している温室効果ガスの量は二酸化炭素で換算して12億7600万トン(2019年度)という数字が発表されている。これを分野別にまとめると右図のようになる。



これを2050年でゼロにするというのは、いささか大きな目標である。

## 【どうして達成するか】

この目標を達成するために日本の各自治体が発表した計画がある。2021年7月30日付でまとめられたもので、432件に上り、11,118万人(日本人 87.5%)の人口が含まれている。

兵庫県明石市は、86番目(2020年3月23日)に発表している。

## 【明石市の計画】

2020年3月23日、明石市議会の「気候非常事態宣言」に関する決議を受けて、同日市長が「気候非常事態宣言を表明、宣言文において2050年までにCO<sub>2</sub>排出量と吸収量の均衡をとる「実質ゼロ」を目指すことを明記した。市が推進するSDGsの理念に基づき、環境・経済・社会の3側面の統合的な向上を図るため地域循環共生圏の構築に向け、様々な地域資源の活用を検討する。再生可能エネルギーの活用を軸とし、水素等の新エネルギーの活用についても検討する。その他、今後の方向性や具体の施策については、環境基本計画及び地球温暖化対策実行計画の改定に合わせ定めることとする。数字については書かれていないが、政府の方針に従うものと考えられている。

我々一般市民としてこの計画に協力できる方法としては、家庭における温室効果ガスの削減である。明石市の案には具体的に盛り込まれていないが、家庭でできる二酸化炭素削減の方法について福島県本宮市が発表している「家庭でできる取り組み10項目(二酸化炭素の排出量削減)」というレポート(全国地球温暖化防止活動推進センター)によると、年間削減されるCO<sub>2</sub>量は1世帯当たり削減量736kgから算出すると、全国の削減量は3711万2800 tonとなる。この削減量は家庭からの排出量2億416万トン(総排出量の16%)の18%、全排出量12億7600万tonの約3%に

当たります。家庭でのわずかな削減でも少しは役立っているのであるから、そのほかの部門での努力が期待される。その一つの方策として「炭素税」がある。温室効果ガス1トン当たり1万円の税金をかけるというもので、産業界では反対する声が上がっている。運輸業界に対する規制も強くなっていく方向にあり、温室効果ガスを排出するガソリン車の生産をやめるといふ動きも出ている。電気自動車から水素ガスを燃料とする車まで開発が進められている。2050年はそれほど遠い未来ではない。早急に脱二酸化炭素への技術開発が急がれる。

### 【菅首相が退陣すれば、この約束はどうなる】

このようにして各自治体でも計画を立てているが、ここにきて菅首相が退陣を表明した。同首相が表明していたカーボンニュートラルの約束はどうなるかが懸念されているが、一国の首相が表明した約束であるので、その約束は守らなければならないという意見が大勢を占めているので、2050年には温室効果ガスの排出はゼロにしなければならない。いくつかの問題が指摘されているが、どうしてもやり遂げねばならないという覚悟と具体的な政策がなければ達成できない。

まず私が警戒するのは原子力発電に期待することである。いくら安全策がとられても事故は必ず起こる。広島・長崎に原子力爆弾で大きな被害を被った我が国が、自国での活用のほかに世界に向かって輸出しようとしているのはできるだけ早い時期に廃止すべきである。結局頼るのは再生可能エネルギー(太陽光・風力・水力など)と水素エネルギーの利用である。とにかく温室効果ガスを出す工程から、脱却して、新しい方法を考え出さねば、明るい社会は構築されないというぎりぎりの対応が求められている。

## 令和3年1月～9月活動実績

1. 宮水ジュニア 西宮市神原公民館(前期)は新型コロナウイルス対策のため、受講生を少人数とし12名で実施。  
6月26日 「地球温暖化と省エネ」を学習し、照明器具や電気製品の待機電力など省エネ実験。  
7月10日 「自然エネルギー・太陽光発電」を学習し、太陽光発電による電子オルゴールを工作。  
7月31日 「ケナフの光合成とCO2削減を学習して、ケナフ材によるストラップとケナフ鞆皮でコースター工作。  
8月21日 「太陽光と紫外線を学び、紙コップで作る分光器で虹を観測」  
9月 4日 「森のはたらきと炭の効用を学習し、七輪炭火でケナフ炭を作り、餅を焼きぜんざいで食べました。  
10月9日 「自然エネルギー・風力発電」を学習し、ペットボトルで風車工作し、発電実験の予定。



節電実験



コップの中に虹を作る



炭焼き実験

## 2. まちの寺子屋(明石本校) ダンロップ環境教室

3月26日 三木市民活動センターで「地球温暖化と海の環境を学習して、お魚ドーム工作」



8月14日 エコクッキング「自然エネルギー学習と段ボールで作ったピザ窯で炭火を使ってピザ作りに挑戦」



ピザ作り

段ボールピザ窯



炭の活用展示



太陽光発電で蒸しパン作りケナフストラップ工作



太陽光焦熱炉展示

3. コープカルチャー宝塚8月 4日 「地球温暖化を学習して、ペットボトルを使ったソーラーカー工作」



ペットボトルでソーラーカー工作

4. まちの寺子屋(淡路・夢前分校)

- 1月17日 「炭焼き準備、竹材切出し」(淡路)
- 2月14日 「炭窯ケナフ・竹窯入れ」(淡路)
- 4月18日 「ケナフ炭焼き・ケナフ種まき」(淡路)
- 5月30日 「ケナフ植草祭」(淡路)
- 7月19日 「ケナフ畑除草生育状況」(淡路)
- 9月12日 「ケナフ畑除草・生育状況」(淡路)



ケナフ植草祭

「肩のこらない環境クイズ」「折々の抄」は今回お休みします。

## 【郷土芸能】

理事 有村利範

「ふるさととは遠きにありて思ふもの」と詠んだのは、室生犀星。

私の場合は、多くの良き友に恵まれたこともあってか50代、60代ごろまでは、ふるさと と言うより竹馬の友と過ごした少年時代が脳裏にうかぶ。

ところが、歳を重ねた今、テレビや新聞などで地方の郷土芸能が紹介されると、故郷の村を挙げての行事が懐かしくよみがえる。私の故郷、鹿児島市喜入前之浜町 川上部落には、約二百数十年前から伝承する「チョイのチョイ踊り」と言うのがある。この踊り昔 敵城に攻め込むとき敵の目をごまかすため、男性が女装して敵の油断に乗じて勝利したと言い伝えられている。さあ、いよいよ踊りの始まりだ。小学校校庭に終戦後戦地から復員してきた血気盛んな20代の青年たちが踊り手となって女装。2人1組総勢20人ほどが、刀を勢いよく振りかぶり扇子をパット開く、ここが一番の見どころ、観客の拍手。優雅にして勇壮な踊りだ。校庭で踊り終わった後は、踊り手と関係者が一団となって鐘を鳴らし太鼓を打ちながら部落を練り歩き、有力者の庭で踊りを披露。すると有力者からお花がでる、これを一団の長老が高々と差し上げ紹介、それに一団が応え御礼と喜びの歓声を上げる。

郷土芸能は、「チョイのチョイ踊り」だけではない、川中部落は「棒おどり」、この踊り力強くきびきびとした動きは勇壮な男たちの踊り。鈴部落は「猿の子おどり」小学校から約4キロ離れた部落で、私は一度も見る機会がなかった。女性たちは、「相撲甚句」「霧島丸遭難（鹿児島商船学校練習船）」の他に「鹿児島おはら節」などの歌に合わせての踊り。

おわりに、昭和21年当時の記憶を紹介となったが、近年 古き郷土芸能は存続危機にあると聞く。私の故郷では、地域の芸能を守り、後継者を育てる目的で、小学校において3年生以上の児童に、保存会の指導の下、練習を重ねていると言う。存続に光、とてもうれしく思う。

## 今後の活動スケジュール

### 令和3年10～11月活動予定

10月 6日	水	松が丘交流ゾーン	例会・理事会
10月 9日	土	西宮市神原公民館	宮水ジュニア「風力発電学習・ペットボトル風車工作発電実験」
10月10日	日	松が丘交流ゾーン	ダンロップ環境教室 ひまわり会協働「塩分糖分実験・地産地消」
10月16・17日	日	神戸メリケンパーク	ふれあいの祭典「ふれあいフェスティバル in 神戸」出展
10月31日	日	三木市民活動センター	ダンロップ環境教室「自然エネルギー学習とソーラーカー工作」
11月 3日	水	松が丘交流ゾーン	例会・理事会
11月13日	土	西宮市高木公民館	宮水ジュニア「地球温暖化と省エネ学習・電力省エネ実験」
11月20・21日	日	三木市民活動センター	ボランティアフェスタに出展
11月28日	日	洲本市五色町	ケナフ刈取り収穫

### 【会員随時募集中】

地球温暖化防止活動などに関心がある方、下記事務局に連絡をお願いします。

〒673-0862 明石市松が丘2丁目2-6 明舞プラザビル2階  
(明舞まちづくり交流拠点内) NPO法人 環境21の会事務局

電話&FAX: 078-914-5546

Eメール: [kankyo21@zeus.eonet.ne.jp](mailto:kankyo21@zeus.eonet.ne.jp)

ホームページ: <http://www.eonet.ne.jp/~kankyou21nokai>



### 編集後記

コロナ禍の影響で活動を自粛していましたが、それでも何件かの出前教室をさせていただき感謝します。環境ニュース NOW は例年4月、7月にも発行していましたが休刊として、ようやく10月に発行できたことうれしく思います。コロナ禍ではありませんが、感染防止を徹底しながら、これからも頑張りますのでよろしくお願いいたします。